

医心伝心

中瀬別町国民健康保険病院だより

英木検査技師 血管診療技師に認定

今年6月、国保病院の英木康彦検査技師が、院内で数少ない血管診療技師（CVA: Cardio Vascular Technologist）に認定されました。

血管診療技師とは、血管の病気がリンパの病気も含むに關する総合的な知識を持ち、血管検査に携わる技術が十分にある医療従事者として血管診療技術認定機構から認定されるものです。06年から認定が始まり現在は全国でも170名とまだまだ少なく、血管治療の分野において、今後の活躍が期待されています。資格の維持には学会への参加や講習会などへ参加し、5年毎の更新をしなければなりません。

英木技師はこれから血管診

療技師として、医師の指示のもと他病院で行った術後の経過観察、血管検査における更なる精度の保持、患者様への簡単な説明を行っていき、将来的に可能であれば弾性ストッキングや医療リンパドレナージなどの血管に関する治療予助を学び、住友院長や看護師を支えていきたいと話しています。

病院では下肢閉塞性動脈硬化症（下肢ASO）のスクリーニング検査は5分で簡単に予約なしでも可能ですし、また、最近足の色が悪い、足の腫れ（一般的には深部静脈血栓症・リンパ浮腫など）などがある方はその原因を探る超音



波検査（45分ほどかかります）も行っています。気になる方は、遠慮なく医師にご相談下さい。

注）

・弾性ストッキングとは、静脈を圧迫し、血栓を出来にくくするストッキングのこと。

・リンパドレナージとは、リンパ浮腫を抑制するため、リンパの流れを良くするマッサージのこと。

【9月のお知らせ】

○9月の整形外科診療日は9月13・27日です。

予約制になっていきますので事務までお問い合わせください。

○リハビリの出張診療は

9月14日（理学療法士）、28日（作業療法士）です。

ご希望の方は、病院・保健センターにお問い合わせください。

○引き続き正看護師の募集をしています。

中瀬別町、近隣町村出身者の方で地元でキャリアを活かしたいと考えている方をお待ちしています。



「ジェネリック医薬品」について

本格的な少子高齢化社会を迎えるわが国において、医療費の問題は深刻です。医療費抑制策の一つとして注目されている「ジェネリック医薬品」について、今回取り上げてみました。

その前に「医薬品」とは、薬事法第2条第1項で、「日本薬局方に収められている物」「人又は動物の疾病の診断、治療又は予防に使用されること」が目的とされる物であつて、器具器械でないもの」「人又は動物の身体の構造又は機能に影響を及ぼすことが目的とされている物であつて、器具器械でないもの」と定義され、品質・有効性・安全性の確保などの目的で規制されています。

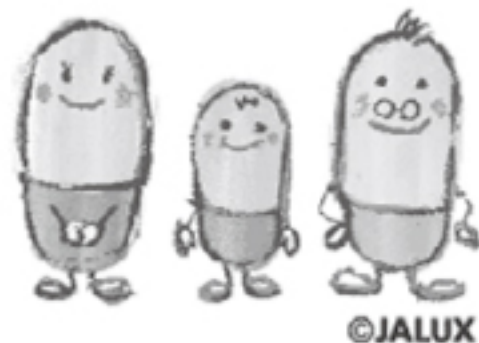
医薬品の使用者による分類では、医療機関で処方され使用する「医療用医薬品」と、薬局・薬店で販売される「一般用医薬品」（大衆薬又はOT

C薬、配置販売薬）に分けられます。ここでは、医療用医薬品について考えます。

「薬価基準」とは、厚生労働大臣が定めた、保険医療で使用できる医薬品のリストであり、その価格表であります。現在、薬価基準収載品目数は、約1万5千品目もあります。銘柄（販売）別薬価収載方式が基本であることから品目数も多く、主成分・含量が同じでも後発医薬品と先発医薬品とでは、この薬価が異なる。このうち半数強が先発医薬品で、残りがジェネリック医薬品です。

「ジェネリック医薬品」（後発医薬品）とは、新薬（先発医薬品）の独占的販売期間「有効性・安全性を検証する再審査期間（原則6年間）及び特許期間（20～25年間）」が終了した後に発売される新薬と同じ有効成分で効能・効果、用法・用量が同一であり、新薬に比べて低価格な医薬品です。欧米では、有効成分の一般名（generic name）で処方されることが多いため、

「ジェネリック」という言葉で呼ばれています。なぜ「ジェネリック医薬品」が先発医薬品よりも安価な値段で販売することができるとかという点、先発医薬品の開発が10～15年、数百億もの投資が必要といわれるのに対して、ジェネリック医薬品の開発期間は3年ほどと短く、新薬に比べて実施する試験項目が少なくいため、研究開発費用も当然低くなります。これらのコストを安く抑えることができるので、それが薬価にも反映され、平均すると先発医



薬品の約半額に抑えることが可能になっています。

しかしながら、現在の日本では、ジェネリック医薬品に関して欧米に比べその割合は大きく下回っています。その理由として考えられることは、安定供給の問題、有効性・安全性などの情報不足、臨床データがないので切り替えられないという医師からの要望などがあげられます。実際、使用して先発医薬品の効能・効果の一部に再審査期間や用途特許が付いているため、ジェネリック医薬品と先発医薬品の効能・効果（適応症）等が一致していない場合があったり、突然の発売中止になったりする課題もあります。

以上の理由などで、厚生労働省のジェネリック医薬品使用促進策は、医薬品市場においてシェア、金額とも思ったほど伸びていないのが現状です。

（薬局 薬剤師 工藤一夫）